



ホノルル市・郡との姉妹都市交流

これまでの１０年を振り返り、これからの１０年を考える

２０２５年７月

茅ヶ崎市



はじめに

茅ヶ崎市とホノルル市・郡は、共通の文化や風土を持ち、美しく豊かな自然に恵まれ、人々はサーフィンやフラ、アロハシャツを楽しみ、「アロハスピリット」を育んでいます。両市が平和、教育、観光、経済、文化、スポーツなどの多くの分野で交流し、お互いが理解と敬意を深めながら、その関係を未来の世代に継承していくことに大きな意義があることから、2014年10月25日（現地時間24日）に姉妹都市友好協定を締結しました。

締結からこれまで、両市の交流は多様な主体により行われ、まちの魅力アップや茅ヶ崎独自のライフスタイルの確立につながったとともに、まちへの興味・愛着（シビックプライド）の醸成にも影響を与えました。

今後も、両市の交流を継続的に進め、価値ある成果をもたらすことが重要であることから、これまでの姉妹都市交流の成果と展望をお伝えすることを目的に、本編「ホノルル姉妹市・郡との姉妹都市交流 これまでの10年を振り返り、これからの10年を考える」を作成します。





目 次

第1章 ホノルル市・郡との姉妹都市友好協定締結 P 3～

- 1 姉妹都市友好協定締結の経緯
- 2 姉妹都市友好協定の合意事項
- 3 姉妹都市友好協定を締結するに至った きっかけ、気運、効果としての期待

第2章 これまでの取り組みと成果 P 6～

- 1 通年事業
- 2 周年事業
- 3 その他

第3章 ホノルル市・郡とのこれまでの10年を振り返る P 13～

- 1 茅ヶ崎市としての成果
- 2 ホノルル市側からの評価
- 3 課題～将来あるべき姿の「姉妹都市交流」に向けて

第4章 ホノルル市・郡との次の10年の交流を考える P 15～

- 1 目的
- 2 目標
- 3 期間
- 4 交流の主体
- 5 分野ごとの交流イメージ
- 6 交流を進めるうえでのテーマごとの考え方
- 7 重点的な取り組みと展望
- 8 事業の振り返り及び取り組みの評価と検証



第1章 ホノルル市・郡との姉妹都市友好協定締結

1 姉妹都市友好協定締結の経緯

2003年	茅ヶ崎商工会議所で「茅ヶ崎アロハ実行委員会」が立ち上がる。 「アロハビズ」を提唱し、茅ヶ崎のスローライフスタイル、環境にやさしいまちづくりを掲げる。
2004年	オアフ観光局協力のもとハワイ物産展「アロハマーケット」を初開催。以降、毎年開催。 オアフ観光局と茅ヶ崎市観光協会との間で友好ビーチが話題となる。
2011年	ワールド・インビテーション・フラ・フェスティバル日本大会が茅ヶ崎で開催される。
2012年	第2回ワールド・インビテーション・フラ・フェスティバル日本大会の開催時に、ハワイ側の実行委員会及び茅ヶ崎市観光協会との間で、友好ビーチが話題となる。
2013年	第3回ワールド・インビテーション・フラ・フェスティバル日本大会の開催に向けた調整の中で、ホノルル市議会関係者より友好ビーチではなく姉妹都市提携について検討することが話題となる。
2013年10月15日	茅ヶ崎市観光協会、茅ヶ崎商工会議所、茅ヶ崎アロハ委員会が茅ヶ崎市に姉妹都市提携についての要望書を提出。
2014年2月19日	ホノルル市議会において「日本国神奈川県茅ヶ崎市議会とホノルル市議会の友好関係の創設に関する決議」が全会一致で承認される。
2014年3月24日	茅ヶ崎市議会において、「茅ヶ崎市議会との友好関係創設に関するホノルル市議会の決議に謝意を表すとともに、両市の姉妹都市提携に向けた取組の推進を求める決議」が全会一致で可決される。
2014年6月2日	ハワイサーフィン協会と茅ヶ崎サーフィン協会・日本サーフィン連盟茅ヶ崎支部がフレンドシップ協定を締結。
2014年8月3日～4日	カーク・コールドウェル ホノルル市長が茅ヶ崎市に公式訪問。
2014年10月25日 (現地時間24日)	茅ヶ崎市とホノルル市・郡が姉妹都市友好協定を締結。 茅ヶ崎商工会議所とハワイ商工会議所との間で姉妹会議所提携合意書が取り交わされる。



2 姉妹都市友好協定の合意事項

- (1) 両市間の友好を互いに深く理解し合うために姉妹都市友好を締結すること。
- (2) 姉妹都市提携の目的は、両市が一層の理解と敬意を深め、次世代の子どもたちへこの友好を継承していくこと。
- (3) 平等と相互利益の精神に基づき、両市民間に姉妹都市としての友好の絆を築き、平和、教育、観光、通商、化学・技術、文化スポーツの分野において、市民相互の交流・協力、双方の繁栄と経済発展を推進すること。
- (4) 友好の精神のもと、両市の指導者および市民は定期的に交流を続け、相互に実りある活動を達成していくこと。

姉妹都市友好協定書

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市・郡
日本国神奈川県茅ヶ崎市

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市・郡と日本国神奈川県茅ヶ崎市は、両市間の友好を互いに深く理解し合うために姉妹都市友好を締結することをここに合意する。

両市は、豊かな自然、サーフィン、フラ、アロハシャツ、そしてそこから生まれるアロハスピリットなど、共通の風土や文化を有している。姉妹都市提携の目的は、両市が一層の理解と敬意を深め、次世代の子どもたちへこの友好を継承していくことにある。

両市は、平等と相互利益の精神に基づき、両市民間に姉妹都市としての友好の絆を築き、平和、教育、観光、通商、科学・技術、文化、スポーツの分野において、市民相互の交流・協力、双方の繁栄と経済発展を推進することに合意する。

友好の精神のもと、両市の指導者および市民は定期的に交流を続け、相互に実りある活動を達成していくことに合意する。

この協定書は、日本語と英語で2通作成し、2014年10月にホノルル市・郡において調印する。どちらの言語の協定書も真正のものとする。



3 友好姉妹都市を締結するに至った きっかけ、気運、効果としての期待

(1) 姉妹都市友好協定のきっかけ

- ア これまで醸成してきたアロハの文化や精神
- イ 海岸がまちのシンボルの一つであり大きな財産であること、スローライフ、アロハスピリットを享受していることなど、共通の風土や文化の暮らしの中への根付き
- ウ サーフィンやフラなどの市民レベルでの交流の存在

(2) 締結まで、また締結に伴う市の気運

- ア ハワイサーフィン協会と茅ヶ崎サーフィン協会・日本サーフィン連盟茅ヶ崎支部がフレンドシップ協定を締結
- イ ハワイ商工会議所と茅ヶ崎商工会議所が姉妹会議所提携を合意
- ウ ホノルル市議会と茅ヶ崎市議会が友好議会協定を締結（2016年4月21日（現地時間20日））

(3) 姉妹都市交流への効果として期待されるもの

- ア 様々な分野における新しい交流の醸成
- イ 次世代を担う子どもたちの人材育成
- ウ 茅ヶ崎市の将来の発展のチャンス
- エ 文化的な理解や教育交流の促進
- オ 経済の発展を振興、ビジネスコネクションの活用
- カ 多様性に対するコミットメントの強化
- キ 姉妹都市の良好で有意義な関係を次世代へ継承

ホノルル市・郡との姉妹都市交流は、自治体同士の交流・協力だけでなく、住民（市民、事業者、地域の市民団体、教育機関、経済団体、その他）が、互いの発展のために情報交換や意見交換を行うことで、国内では得られない情報や経験を得ることができるとともに、住んでいるまちの魅力を再発見・再認識するなど、地域社会の活性化への契機となるような効果が望まれます。



第2章 これまでの取り組みと成果

姉妹都市友好協定締結以降、茅ヶ崎市とホノルル市・郡は様々な事業を市民の皆様や関係団体、事業者等の皆様と共に継続的に実施してきました。そこで、第2章では様々な姉妹都市交流事業における取り組みの実績・成果を振り返ります。

1 通年事業

(1) 市内における姉妹都市交流事業

○アロハマーケット

エアコン利用を控え、「窓を開け、風を感じる」環境にやさしいまちを目指す、茅ヶ崎アロハ事業の一環として、茅ヶ崎アロハ実行委員会が「茅ヶ崎にいながらハワイ気分を満喫できるイベント」をキャッチコピーに開催。茅ヶ崎とハワイ文化の融合から商業活性化を目指すとともに、姉妹都市交流の促進につなげることを目的としている（2022年からは市との共催事業）。

【実績】

締結以前の2004年から開催。現在では、2日間で約4万人を超える市内外の方が来場。また、アロハマーケット終了後は姉妹都市アロハマーケット交流事業として、ハワイゲストと小学生との交流プログラムを実施。

【成果】

集客力のあるハワイイベントの一つとして、市内外から多くの方が訪れることから、経済的効果に加え、茅ヶ崎の魅力を発信するシティプロモーションとしても大きな効果があります。また、ハワイからのゲストとの交流を通じて、子どもたちが姉妹都市ホノルルを身近に感じてもらい、異文化に対する興味・関心を持つきっかけにもつながりました。

○ホノルルウィーク

期間中は、フラッグを掲げた市内参加店舗でハワイやホノルルにちなんだ特典や割引等のサービスを実施。姉妹都市の周知及び友好親善をより一層深めるためのきっかけづくりを目的としている。

【実績】

姉妹都市締結後の2015年から実施。年間あたりの市内店舗・大型店の参加数は約70～120店舗であり、これまでの最大参加店舗数は300店舗。そのほか、公民館等の公共施設ではタイアップイベントを開催。

【成果】

毎年欠かさず参加いただく店舗もあれば、新規参加店舗も一定数あり、地域における姉妹都市ファンを増やすための一つのツールとなっています。特に締結5周年や10周年といった節目の年においては、「5」や「10」をキーワード



とした特典や割引等を提供することで、姉妹都市ホノルルとの関係性を市民に広く周知するための役割を担いました。

○ホノルルミーツ

姉妹都市ホノルルと「出会う」をテーマに、ハワイ文化をより身近に感じてもらえるようなワークショップや体験講座を中心に展開。姉妹都市の周知及び友好親善をより一層深めるためのきっかけづくりを目的としている。

【実績】

2022年から開催。市役所前広場での1DAYイベントとして実施、約1,500の方が来場。2024年は姉妹都市10周年を記念し、規模を拡大し第一カッターきいろ公園にて実施、約5,000の方が来場。

【成果】

締結月の節目のイベントとして効果的な周知につながっています。イベントの主旨に賛同する事業者も多く、2024年開催時には姉妹都市ホノルルにゆかりのあるハワイアン航空からの協賛をいただくなど、ホノルル市・郡との友好親善を深める役割を担いました。

○ホノルル給食

ホノルルにちなんだメニューとして、小学校では「モチコチキン」や「フリフリチキン」、保育園では「ロコモコ風ハンバーグ」などハワイのローカルフードを給食風にアレンジして提供。学校給食を通じて、子どもたちに姉妹都市ホノルルを身近に感じてもらうことを目的とするとともに、異文化への興味・関心につながるきっかけとなっている。

【実績】

2015年から毎年実施。市内小学校19校から始まり、現在は中学校に加え、公立保育園や私立保育園の一部でも実施。

【成果】

食を通じた学習の一環として、子どもたちの国際感覚の醸成に影響を与えました。また、姉妹都市締結月である10月にホノルル給食を実施することと、市の歴史として姉妹都市を「知る」機会にもつながりました。

(2) ホノルル市・郡との交流事業

○青少年国際交流事業（派遣・受入）

茅ヶ崎市の小学生がホノルル市・郡を訪れ、学校訪問や各種体験プログラムを通じた交流を実施。また、ホノルル市・郡の小学生が茅ヶ崎市を訪れ、学校訪問や市内散策、各種体験交流を実施（派遣、受入は各年ごと）。グローバル社会を生きる青少年の国際感覚を養うとともに、両市の相互理解を深め、国際親善を図



ることを目的としている。

【実績】

2018年3月に茅ヶ崎市の小学校4・5年生 4人を派遣。

2019年3月にホノルル市・郡の小学校5年生7人を受け入れ。

2020年～2023年は感染症の影響により中止。

2024年3月に茅ヶ崎市の小学校4・5年生 4人を派遣。

2025年3月にホノルル市・郡の小学生を受け入れ。

【成果】

貴重な経験を通し、姉妹都市への理解・知識をさらに深めるとともに、共通の文化や風土を有している自分たちのまちへの愛着形成、地域を愛する心の育みへとつながりました。また、事業報告として様々な場所での報告会を実施し、姉妹都市の周知、両市の相互理解・国際親善が図られました。

○ホノルルフェスティバル

ハワイ最大級の規模を誇る文化交流イベント。ホノルル市・郡やハワイ州、JTB・JAL・地元企業の支援により、非営利組織であるホノルルフェスティバル財団が運営。茅ヶ崎の姉妹都市PRを目的とするとともに、事業運営面における外交的要素の側面もある。

【実績】

2016年3月から毎年参加。

2022年～2023年は感染症の影響により中止。

市、観光協会（ホノルルフェスティバル出展事業）、商工会議所、民間団体、ボランティアスタッフが参加。ブース出店、ステージ演出、パレード参加等を通して茅ヶ崎市をPR。

【成果】

現地ホノルルでの茅ヶ崎のPRを行うとともに、ブースでは実施して欲しい交流の分野についてホノルル市民へのニーズ調査を行い、今後の事業展開に活かすための指標としました。（ニーズ調査初年度の2018年の実施して欲しい交流は、交換留学生、文化交流、ビジネスセミナーの順。直近の2024年は文化交流、青少年相互派遣、スポーツ交流の順）。また、市長自らホノルル市長や総領事館、美術館、学校、民間事業者等への訪問・視察を行うことにより、交流の推進、事業の実現化へとつながりました。なお、ホノルルフェスティバルへの継続的な参加を条件に、地元企業の一つであるJTB Goodwill財団から青少年国際交流事業（派遣・受入）に対しての支援をいただいています。

○市民ツアー

旅行会社との共同企画。市民を対象にしたホノルル市・郡へのツアーの開催。



ホノルル市・郡の魅力を直接現地で触れてもらうことで、姉妹都市ホノルルを知り、理解し、知識を深めてもらう機会へとつなげることを目的としている。

【実績】

2015年から毎年実施。

2020年は感染症の影響により中止。

2021年、2022年はオンラインツアーに切り替えての開催。

【成果】

ツアーでは、茅ヶ崎と関わりを持つ場所を訪問先とすることで、姉妹都市ホノルルへの理解・知識をさらに深めることにつながりました。なお、企画自体は好評であり、毎年定員を超える数の応募者が集まる魅力的なツアーです。

(2024年は締結10周年を記念し、12月と3月に開催予定。12月は定員45人に対し、応募が154人。3月は定員45人に対し、応募が60人)

○姉妹都市サミット（3年周期予定）

ハワイ日米協会（JASH）主催。「私たちをつなぐ絆」をテーマに日本ハワイ姉妹サミットを2023年から開始。将来の交流に向けた出発点となる地方政府・自治体間の交流促進を目的とするとともに、事業運営面における外交的要素の側面もある。

【実績】

姉妹友好関係を有する日本の6道・県、16市区町の県知事、市区町長又はその代理、そしてハワイ州知事、ホノルル市長、カウアイ郡長、マウイ郡長、ハワイ郡長が参加。これまでの交流事業について情報交換を行い、姉妹・友好関係を深化・強化させるための共通の課題を探究する機会となりました。

【成果】

地域共通課題である「エネルギー」、「教育」、「観光」、「ビジネス・経済」について議論、情報交換を重ね、姉妹都市関係の今後の発展に向けた知見を得ました。また、ハワイ州、ホノルル市を代表する政財界の要人や姉妹県・市等に対し、本市の姉妹都市PR及び姉妹都市交流の推進を市長自らがトップセールスとして行うことにより、事業推進のためのネットワーク構築へとつながりました。

○学校教員海外派遣事業（2017年度～2019年度事業）

ホノルル・茅ヶ崎両市の学校間交流の在り方について研究するために、小・中学校教員1人ずつ及び教育委員会指導主事1人をホノルルへ派遣。現地で複数の学校を訪問・視察で得た経験を学校教育現場での姉妹都市交流へと広げること、次代を担う子どもたちの国際理解教育に役立てることを目的としている。

【実績】

2017年11月14日～23日

松浪小学校教諭、鶴が台中学校教諭、教育委員会指導主事を派遣



2018年11月13日～19日

東海岸小学校教諭、松林中学校教諭、教育委員会指導主事を派遣

2019年10月29日～11月4日

鶴嶺小学校教諭、松浪中学校教諭、教育委員会指導主事を派遣

【成果】

派遣された教員は現地での研修後、「国際交流コーディネーター」として所属校における交流実践・報告会のほか、所属校以外の学校でも姉妹都市交流が推進されるよう、準備や支援を行いました。派遣された教員は、茅ヶ崎の青少年のホノルルへの派遣、またホノルルの青少年の茅ヶ崎への受入にも携わっていただくなど、国際理解教育に役立てました。なお、付属的効果として、各学校での姉妹都市に関係する授業の実施や教職員へのアロハビズの導入、教職員の姉妹都市交流事業への参加など、学校教育現場においても姉妹都市への関心・理解が徐々に深まっています。

○姉妹都市サーフィン交流事業（茅ヶ崎市長杯・ホノルル市長杯）

姉妹都市締結以前にハワイサーフィン協会、茅ヶ崎サーフィン協会、日本サーフィン連盟茅ヶ崎支部がフレンドシップ協定を締結。締結のきっかけにもなりました。サーフィンその他マリンスポーツを通じた両市民同士の交流促進を目的としている。

【実績】

サーフィン交流として、毎年茅ヶ崎市長杯をホノルルのワイキキビーチで、ホノルル市長杯を茅ヶ崎西浜海岸で開催。また、子どもたち対象の育成プログラムとして、ホノルルでのサーフィンを通じた交流事業を実施。2022年には姉妹都市交流の推進を目的に、茅ヶ崎アロハ実行委員会との協力連携のもと、ふるさと納税の返礼品にオリジナルサーフボードをエントリー。

【成果】

締結前から民間ベースで行われてきた交流に加え、締結後は姉妹都市サーフィン交流事業補助金（市の補助金）を活用することで、より活発な交流事業が展開されています。また、オリンピックの正式種目になった点や茅ヶ崎市出身のサーファーである松田詩野選手がパリオリンピック出場決定第一号となるなど、シティプロモーション的な効果に加え、サーフィン文化そのものが茅ヶ崎らしさ、「シビックプライド」の醸成にもつながりました。

○姉妹都市経済団体交流事業

茅ヶ崎市とホノルル市・郡の姉妹都市締結と同様に、茅ヶ崎商工会議所とハワイ商工会議所も姉妹会議所提携を締結。講習会や商取引の支援、名産品、工芸品等の展示または販売など経済交流の促進を目的としている。



【実績】

2014年～2016年、まつりインハワイでのブース出展、パレード参加。

2017年、アラモアナセンター内のシロキヤジャパンビレッジで茅ヶ崎フェアを開催。

2019年、茅ヶ崎・ハワイ交流応援商品として21事業者、26商品を認定。

2020年、姉妹都市・姉妹会議所締結に至る歴史やこれまでの活動をまとめたハワイとの経済交流記念誌を作成。

2023年、ハワイ州マウイ島の火災を受け、茅ヶ崎商工会議所窓口や市内大型店等で505,540円の義援金を募り、ハワイ商工会議所を通じて寄付。

【成果】

茅ヶ崎・ハワイ交流応援商品の流通により、普段の生活のなかで姉妹都市ホノルルを感じることができる機会の創出へとつながりました。また、本市を代表するハワイイベントであるアロハマーケットにハワイ商工会議所がブースを出店し、ハワイ物産を販売するなど、民間事業者同士での主体的な連携や交流も行われ、経済活性及び市内産業の発展に大きく貢献しました。

2 周年事業

(1) 1周年事業（2015年度）

- ・記念誌の発行
- ・式典

(2) 3周年事業（2017年度）

- ・美術館企画展：ホノルル美術館所蔵ハワイアンキルト展

(3) 5周年事業（2019年度）

- ・記念お笑いライブ
- ・姉妹都市ホノルル特別デザインの下水道マンホール蓋設置
- ・ハワイアン航空ビーチクリーン
- ・美術館企画展：ヴィンテージアロハシャツの魅力
- ・ヴィンテージアロハシャツ展オリジナルマスク（ALOHAマスク）販売（茅ヶ崎市文化スポーツ振興財団）

(4) 10周年事業（2024年度）

- ・10周年記念ロゴマーク作成
- ・広報ちがさき折り込み紙の発行
- ・シンポジウム（講演会、パネルディスカッション、基調講演）開催
- ・レセプション（締結再確認書への調印式等）開催
- ・ホノルルミーツ（ビール祭り）、市民ツアーの拡大実施
- ・ALOHAモニュメント設置
- ・美術館企画展：柳原良平 ごきげんな船旅



- ・姉妹都市ホノルル特別デザインの下水道マンホール蓋設置（駅周辺 2 か所）
- ・オリジナルデザイン下水道マンホール蓋作成（2025年7月開設の道の駅「湘南ちがさき」に6か所設置予定）
- ・ホノルル市・郡における茅ヶ崎フェア開催の検討（物価高騰や輸出規制の強化等に伴い、現地事業者の判断により開催中止）

3 その他

（1）ホノルル市・郡関係者来茅（※肩書は来茅時点のもの）

2014年	8月	カーク・コールドウェルホノルル市長
2015年	5月	イゲハワイ州知事夫人
	10月	レイ・スーンホノルル市首席補佐官
	11月	イゲハワイ州知事夫人
2016年	2月	ハリー・B・ハリス・ジュニア米国太平洋司令官
	10月	ハリー・B・ハリス・ジュニア米国太平洋司令官
2017年	7月	エルネスト・Y・マーティンホノルル市議会議長
	9月	カーク・コールドウェルホノルル市長
2019年	11月	ロイ・アメミヤホノルル市副市長
2024年	5月	クリシュナ・ジャヤラムホノルル市副市長
		アンディ・サッグホノルル市首席補佐官
2024年	10月	トミー・ウォーターズホノルル市議会議長
		エスター・キアアイナホノルル市議会副議長
		ラディアント・コルデロホノルル市議会議員

（2）寄附事業

姉妹都市交流を多方面で充実させていくことを目的とした「姉妹都市交流基金」を設置し、市民の皆様をはじめ、企業・団体様からの寄附金を資金として有効に活用し、子どもたち同士の相互交流などホノルル市・郡との様々な交流に役立てています。また、近年では企業版ふるさと納税を活用した寄附も増えており、民間目線においても茅ヶ崎市の姉妹都市交流への理解が深まってきたと認識しています。

市内個人からの寄附	10,030,000円
市外個人からの寄附	1,805,000円
募金箱への寄附	117,452円
市内団体からの寄附	180,000円
市外団体からの寄附（企業版ふるさと納税）	25,500,000円



第3章 ホノルル市・郡とのこれまでの10年を振り返る

1 茅ヶ崎市としての成果

両市共通の風土である「海」、「山」そして、共通の文化である「サーフィン」、「フラ」、「アロハ」はホノルル市・郡との姉妹都市友好協定締結以降、まちの魅力としてさらに浸透し、誰もが身近に感じることができる要素となりました。ここに「経済分野」の交流が組み込まれたことで商品の流通が始まり、普段の生活のなかでハワイを身近に感じることができるようになりました。さらには、「教育分野」の交流が加速したことで、食や音楽、スポーツなど学校生活のなかで異文化を見て、触れて、感じる機会が大幅に増え、子どもたちの国際感覚が醸成されたことにより、姉妹都市への理解・興味が深まりました。

姉妹都市友好協定締結から10年間、行政、市民、学校、関係団体・事業者など多様な主体により交流が進められてきたことにより、それぞれの分野における交流の基盤が作られ、誰もが身近に姉妹都市交流に携わることができるようになりました。そして、互いが協力し合い、事業に携わることで新しいカタチの交流が生まれ、人と人とがつながり、コミュニティが活性化されました。

2 ホノルル市側からの評価

10年前、ホノルル市・郡との姉妹都市へのアプローチを同時にかけたのは、茅ヶ崎市と横浜市でした。人口や産業規模、財政面と比較するには規模が大きく違う両市ですが、ホノルル市・郡の選択は共通の風土・文化を有している茅ヶ崎市との姉妹都市提携でした。

第2章の1通年事業、(2)ホノルル市・郡との交流事業におけるホノルルフェスティバルの成果でも触れましたが、ホノルル市民が実施して欲しい交流のニーズ調査では、2018年が交換留学生、文化交流、ビジネスセミナーの順であったのに対し、直近の2024年は文化交流、青少年相互派遣、スポーツ交流の順となりました。締結のきっかけとなった「文化」、そして交流が加速した「教育」への要望が高く、両市の交流の方向性が一致しているのが調査からも読み取ることができます。

なお、今後の姉妹都市交流を見据え、ホノルル市・郡が実施した日本の各都市との交流事業の内容・レベル感の調査及び精査において、茅ヶ崎市は他市にない共通の風土や文化、アロハスピリットが締結のきっかけとなった点、また締結後も文化・教育・経済をはじめ、様々な分野の交流が育まれている点に対し、高い評価を得ています。

3 課題～将来のあるべき姿の「姉妹都市交流」に向けて

交流により様々な成果がある一方で、費用対効果の懸念や事業のマンネリ化、ビジョンや理念の明確化、市民や関係団体、事業者等との継続した連携強化などが課題として考えられます。



将来にわたり、継続性のある姉妹都市交流を実現するにあたっては、協定締結当初の概念やビジョンを土台に両市が同じ方向性を持ち交流を進め、これまで以上に姉妹都市への理解・興味を深め、多くの方に共感いただくことで姉妹都市ファンを増やしていくことが必要です。また、インターネットやSNSの普及により、誰もが情報や知識を取得できる時代のなか、「茅ヶ崎市だからこそできる姉妹都市交流」にアップグレードしていくことが求められます。

これらをふまえ、次の項目に沿って姉妹都市交流事業を展開していく必要があります。

- (1) 市民、関係団体・事業者等の活動参加促進
- (2) 効果的な情報の発信
- (3) 継続性のある姉妹都市交流の実現に向けた効果的な財源確保（寄附等）
- (4) 庁内各部署横断型の協力体制（庁内交流推進体制）の強化
- (5) 実施手法の検討による事業の軽量化
- (6) 事前のニーズ調査とマッチング
- (7) 複眼的な評価（数値化できる側面は数値化しつつ、市民や事業者の声、そのネットワークから生まれる取り組みなど）



第4章 ホノルル市・郡との次の10年の交流を考える

ホノルル市・郡との次の10年の交流に取り組むうえでは、協定締結当初の目的をしっかり意識し、成果と課題を見極めながら、事業を進めることが必要です。また、両市の絆・相互理解を一層深め、実りある交流を育むことで、姉妹都市交流のさらなる推進・深化につなげるとともに、得られる成果を我がまち「ちがさき」の魅力アップの要素として、まちの発展につなげていくことが重要です。

そこで、第4章では、目的や目標、テーマ分野ごとの考え方や重点的な取り組みと展望、事業評価及び検証方法などについて考えていきます。

1 目的

両市が、平和、教育、観光、経済、文化、スポーツなどの多くの分野で交流し、互いに理解と敬意を深めながら、その関係を未来の世代に継承していくこと。

（「姉妹都市友好協定書」抜粋）

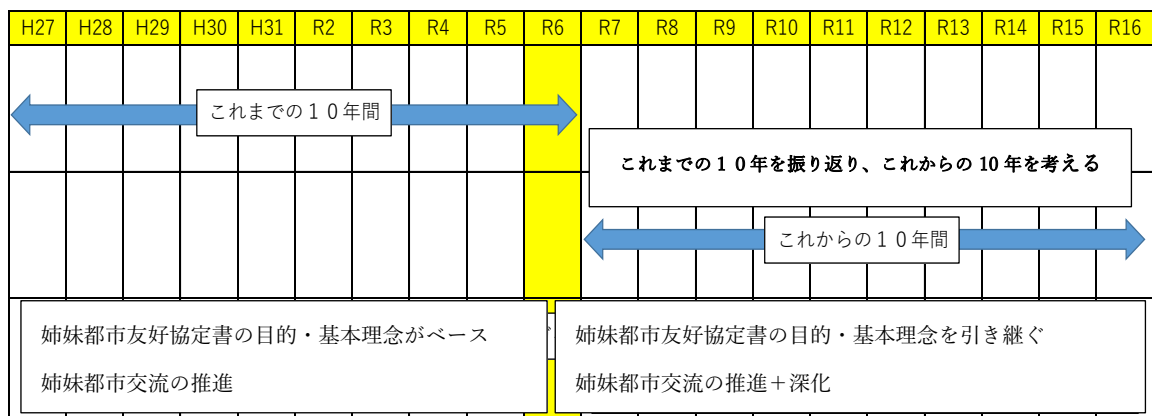
2 目標

姉妹都市を身近に感じてもらうための事業や取り組みを積極的に行う。

- （1） 国際理解を通じたグローバル時代に対応する人材の育成
- （2） 交流の重要な担い手である市民や民間団体による多面的な交流の促進
- （3） 異文化コミュニケーションを通じて、地域の多文化共生へ貢献

3 期間

令和7年度（2025年度）から令和16年度（2034年度）までをホノルル市・郡との次の10年とします。また、本章でお示しする内容については、総合計画と実施計画との整合を図ることを前提とし、優先度に基づき実施事業の範囲を改めて判断していきます。



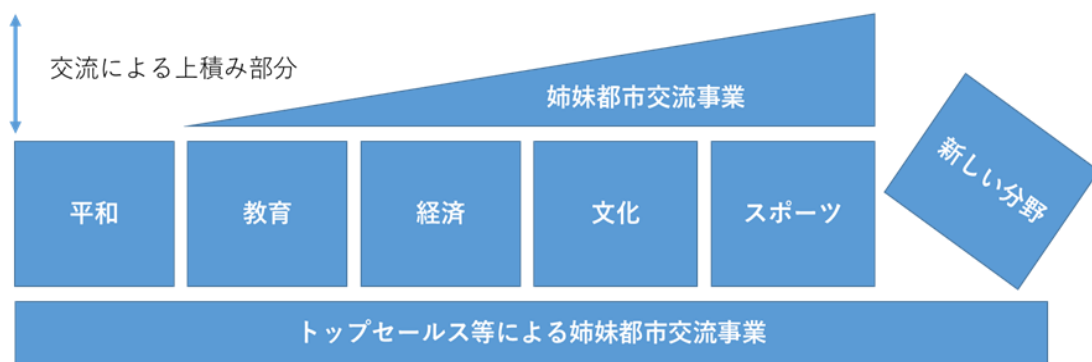


4 交流の主体

- (1) 市民
- (2) 市内の関係団体、事業者
- (3) その他（本事業を、応援する企業等）

次世代交流を中心とした様々な交流を行いながら、多彩かつ主体的に交流が行われていることを基本とする

5 分野ごとの交流イメージ



6 交流を進めるうえでのテーマごとの考え方

多様な主体による姉妹都市交流⇒テーマは「知る」×「つながる」×「伝える」

(1) 「知る」

異文化交流を自らの地域の魅力を再確認、見つめなおす契機と捉え、まちへの興味・愛着(シビックプライド)の醸成を図ります。また、これまで積み重ねてきた分野ごとの交流を深掘りすることで姉妹都市を「知る」機会を増やし、そこで得た知識や経験を土台に新たな交流へのステップにつなげます。

(2) 「つながる」

文化・教育・経済など様々な分野における交流をきっかけに人と人との結びつきが深まり、コミュニティの活性化へと「つなげ」ます。また、各種事業を行政、市民、民間が連携し、一体となって取り組むことにより、事業のアップグレード・効率化を図ります。

(3) 「伝える」

交流で培った経験や学んだ知識を確実に次の世代に「伝える」ため、効果的かつ継続的な情報発信を行います。また、多くの方が姉妹都市交流に興味・理解を深め、賛同いただくことで、事業財源の創出につなげるとともに、多様な主体による交流を展開します。



7 重点的な取り組みと展望

(1) 文化交流

共通の文化・風土であり、まちに住んでいる誰もが体感できるサーフィンやフラ、そしてアロハ関連の交流事業。市が主体で行うのではなく、関係団体の取り組みを市がバックアップする体制をより整えていくことで多様な主体による交流へとつなげます。

- ・ホノルルミーツ（姉妹都市交流委員会主体）
- ・茅ヶ崎市長杯、ホノルル市長杯（茅ヶ崎サーフィン協会主体）
- ・アロハマーケット（茅ヶ崎アロハ実行委員会主体）
- ・市内フラサークル・団体への協力（市主体）
- ・文化的な情報の発信地を活用した交流（市主体）

【展望】

茅ヶ崎のまちの魅力である共通の文化・風土を基盤とした各種交流については、市民にとっても身近な存在であることから、今後も継続的に取り組みます。また、市美術館等の文化的な情報の発信地をこれまで以上に活用するとともに、お互い顔の見える関係性を構築することで、企画展等の開催や物の貸し借りだけの関係性から、人と人との交流に発展できるようサポートを行っていきます。

なお、姉妹都市10周年という節目を一つのタイミングと捉え、事業手法の見直しを図り、効率化・軽量化へつなげられるよう各団体と検討を進めていきます。

(2) 教育交流

茅ヶ崎独自の取り組みである小学生の派遣及び受け入れ、また保育園・幼稚園等での食を通じて異文化に触れる機会など、子どもたちが国際感覚に触れ、相互理解を深めることを目的とした交流事業。市と市教育委員会、関係団体が協力して取り組むことで、多様な主体による交流へとつなげます。

- ・青少年海外派遣・受け入れ（青少年国際交流事業実行委員会主体）
- ・ホノルル給食（市教育委員会、学校及び幼稚園・保育園主体）
- ・アロハマーケット教育プログラム（茅ヶ崎アロハ実行委員会主体）
- ・平和交流（禎子の折り鶴）（市主体）
- ・教職員の青少年海外派遣・受け入れ（市教育委員会、学校主体）
- ・各学校への出張授業（市主体）

【展望】

学校生活を通じた姉妹都市交流については、多様な考えや文化についての理解や、コミュニケーション能力の育成の重要な機会として捉え、今後も継続的に取り組みます。また、ホノルル市・郡との直接的な交流は子どもたち



の人数にも限りもあることから、そこで学んだ知識や経験を効果的に学校に落とし込み、現地に行けなかった子どもたちも国際感覚を養うことができるよう、市教育委員会と連携し、派遣・受け入れへの教職員の参加や総合的な学習の時間・夏休みの宿題の活用、学校への出張授業など、姉妹都市ホノルルを学ぶ機会の導入に向けた取り組みを進めます。さらには、民間企業や団体と連携し、多くの子どもたちが交流できる事業の実現に向けて対話を進めていきます。

(3) 経済交流

姉妹都市の要素を集客力に活用したイベントの開催や民間企業・団体同士の交流による新たな商品の開発、ビジネスパートナーの選定など茅ヶ崎市で活躍する事業者への支援であり、市全体の経済効果につながる交流事業。市が主体で行うのではなく、民間企業・団体の取り組みを市がバックアップすることで多様な主体による発展的な交流へとつなげます。

- ・アロハマーケット（茅ヶ崎アロハ実行委員会主体）
- ・経済団体交流（茅ヶ崎商工会議所主体）
- ・市民ツアー（姉妹都市交流委員会主体）
- ・道の駅「湘南ちがさき」を活用した経済交流・情報発信（民間主体）

【展望】

経済分野の姉妹都市交流については、観光客誘致やビジネス機会の創出などまちの発展における大きな役割を担うことから今後も継続的に取り組みます。また、2025年に完成予定の道の駅「湘南ちがさき」を新たな交流拠点、情報発信拠点として活用し、姉妹都市関連商品の販売や企画展の実施など、民間と連携した経済効果へとつながる取り組みを企画・検討していきます。

なお、姉妹都市10周年という節目を一つのタイミングと捉え、事業手法の見直しを図り、より効果的な事業の実施につなげられるよう各団体と検討を進めていきます。

(4) 寄附事業

姉妹都市締結から5年後、市民レベルでの交流をさらに深めるために自主的な活動体として「茅ヶ崎・ホノルル姉妹都市応援団」が結成されました。また、コロナ禍を乗り越え、締結10周年における様々な事業の実施にあたっては、民間企業からの協賛、寄附をいただくことができました。こうした市民の気運の高まりや民間企業からの理解・賛同をチャンスと捉え、各事業を活用した積極的な寄附活動を進めていきます。



(5) 外交的要素を持つ取り組み

ホノルル市・郡への渡航が伴う事業やホノルル市・郡からの来茅対応については、両市の絆を深め、その関係を次の世代につなぐための取り組みであるとともに、市を代表して市長自らが行うトップセールスとしての一面があります。また同時に多様な主体により行われている様々な分野の交流事業を効率的かつ効果的に進めるための調整・準備としての側面もあります。このことから、時期や社会情勢を見極めたなかでの渡航・来茅における対応を行うことは、継続性のある姉妹都市交流を実現するうえで重要な役割を担っています。

- ・ホノルルフェスティバル
- ・ホノルル市・郡関係者の来茅対応
- ・現地在住の姉妹都市交流特命大使との対話、情報共有

8 事業の振り返り及び取り組みの評価と検証

事業の振り返りを行う上では、手法の見直しや主体の最適化を図り、効果検証を実施することで、取り組みの定着化及び姉妹都市交流のさらなる推進・深化につなげることが重要です。また、姉妹都市交流事業は、短いスパンでは効果が出にくく、長期的な視点を持って取り組む必要があることから、的確な時期を見定め、次の(1)から(6)の視点を念頭に取り組みの評価及び検証を引き続き行っていきます。

- (1) 各事業の目的の明確化
- (2) 目的の達成の長所と短所の明確化
- (3) 短所を補う考え方の明確化
- (4) 長期的な目標の考慮（15年目、20年目）
- (5) 数値化できるものについての経年比較（各事業の参加者数、申込者数、参店舗数など）
- (6) 参加者の意識と行動の変化の把握（アンケート調査など）



姉妹都市交流の推進にあたり（おわりに）

ホノルル市・郡が日本の各都市と姉妹都市となるきっかけには、「平和」や「戦争」といった背景があることが多いなか、茅ヶ崎市は共通の風土や文化、そして寛容を尊ぶALOHAスピリットが背景となり締結をした唯一の市です。こうしたことをふまえ、姉妹都市交流の歴史を振り返ると、今日行われている様々な分野での交流の土台は、締結以前より築き上げられていたと言っても過言ではありません。そして、コロナ禍を経た10年間の姉妹都市交流を経て、当たり前にと人と人が交流を育むことができることの幸福感を実感するとともに、そこでしか得られないことができない知識や経験、強固な絆や形成されるコミュニティを深めることにつながりました。

本編「ホノルル市・郡との姉妹都市交流 これまでの10年を振り返り、これからの10年を考える」では、これまでの姉妹都市交流の成果や課題をふまえ、11年目を以降もより効果的にかつ継続性のある交流を進めていくための展望をお示しさせていただきました。一方で、交流の主体は多様であることから、交流への携わり方や考え方は主体ごとに様々です。少しでも多くの方々が交流に携わることで、茅ヶ崎独自の交流スタイルが生まれ、姉妹都市を身近に感じる環境づくりへとつながります。

今後についても、姉妹都市ホノルルを茅ヶ崎の魅力の一つとして捉え、地域に浸透していくことで住んでいる人のまちに対する愛着の醸成へとつなげられるよう、また国際的な広い視点で様々な交流に携わり、多様な文化や価値観を尊重していくなかで、その関係性を未来の世代にも確実に継承していくことができるよう取り組んでまいります。

姉妹都市交流の推進、そして深化に向けて、引き続き皆様方のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

